

ゼロトラストソリューションを掲げ サイバーレジリエンスパッケージを提供

Sier（システムインテグレーター）として、セキュリティ事業をはじめ、多様なIT事業を手掛けるアルプスシステムインテグレーション（株）。同社のセキュリティに関する幅広い取り組み、そして2025年11月から提供しているパッケージソリューション「Endpoint Cyber Resilience Suite」などについて話してもらった。

Webフィルタリングツールで「GIGAスクール構想」に貢献

まずは御社の概要から伺いたいと思います。



ふじもり・まさつぐ

藤森正嗣

アルプス システム インテグレーション株式会社
クラウドソリューション事業 ビジネス戦略部 新ビジネス推進課



やまぐち・かずき

山口和希

アルプス システム インテグレーション株式会社
セールス&マーケティング第2営業部 関西営業課

山口和希・アルプス システム インテグレーション セールス & マーケティング第2営業部 関西営業課 当社はもとよりアルプス電気（株）のIT戦略会社として1990年に誕生しました。その後、アルプス電気とアルパイン（株）の経営統合にともない、当社もアルパイン情報システム（株）と合併することになりました。現在の組織体制になりました。セキュリティに関して、早い段階から注力しはじめ、1996年に日本で初めてフィルタリング事業（※）を開始し、2000年に日本初の法人向け

国産Webフィルタリングソフト「InterSafe」を販売するなどしてきました。現在は顧客システムの企画・設計・開発・導入・運用・保守を一貫して手掛けています。

Webフィルタリングに関しては、教育の現場でも重用されているそうですね。

山口 2019年から文部科学省が推進してきた「GIGAスクール構想」では、子どもたち一人ひとりに端末を1台ずつ配布するとともに、全国の公立学校への高速大容量の通信ネットワークの整備が推進されてきましたが、現在はその第2フェーズとなっており、ICT環境の更新や学習方法のアップデートを通じて、GIGAスクール構想をさらに推し進めることにな

っています。そのなかで、当社では校内授業と家庭学習の安全なインターネット利用を実現するためにクラウド型Webフィルタリングサービス「InterSafe GatewayConnection」を提供しているところです。このWebフィルタリングサービスは国内トップレベルのフィルタリングカテゴリ数を誇るだけでなく、授業時間に合わせてWebアクセスの有無を管理したり、授業で利用するYouTubeチャンネルのみを閲覧許可させたりと、柔軟な設定が可能ということもあり、多くの学校や教育委員会に導入いただいています。

柔軟な設定が可能なのは学校や教育委員会にとって、非常にありがたいですね。

山口 実際、Webフィルタリ

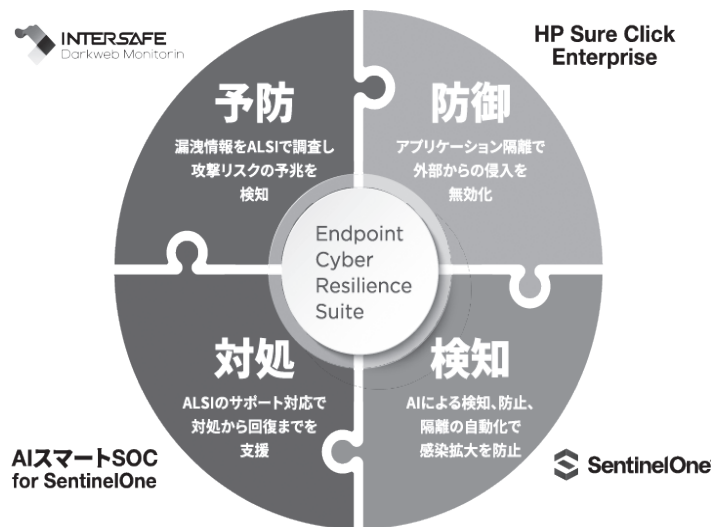
ングの方針は自治体によって異なるので、柔軟性は非常に重要なポイントです。また、文部科学省が児童・生徒の端末利用ログの可視化を指示していることもあり、当社のWebフィルタリングサービスではそのあたりもカバーしています。簡単に児童・生徒のログを確認できるほか、全体の傾向などもダッシュボードで可視化できるようになっているため、教育委員会などではそのデータをもとにさらなる端末活用の可能性を探索しているようです。もちろん、サポート窓口も設置しており「必要なサイトにアクセスできない」「危険なサイトにアクセスできてしまった」などの問い合わせにもスピーディに対応しています。

特定、防御、検知、復旧をワンストップで実現する「Endpoint Cyber Resilience Suite」

自治体や企業に対しては、エンドポイント対策として「HP Sure Click Enterprise（HP SCE）」を積極的に提案しているそうですね。

藤森正嗣・アルプス システム インテグレーションクラウドソリューション事業 ビジネス戦略部 新ビジネス推進課 サイ

「Endpoint Cyber Resilience Suite」の構成



バー攻撃が多様化している今日、企業を守るには複合的なセキュリティ対策が必須です。実際、従来のセキュリティツールは外部からの攻撃を意識したものが多く、ファイアウォールなどで境界を守ることに注力してきました。しかし、今ではファイアウォールをすり抜けてくる攻撃も増えてきましたし、外部だけでなく、内部から情報漏洩が生じることも増えてきました。また、一見すると安全なサイトでも、ハッカーが情報を書き換えて危険なサイトになっているケースもあり、Webフィルタリン

グだけではすべてのサイバー攻撃から企業を守ることができなくなっているのです。そこで、当社ではゼロトラストソリューション（すべての通信を信用しないことを前提としたセキュリティソリューション）を標榜し、とくにセキュリティ関連の人材リソースが足りない中堅・中小企業への支援に力を注いでいます。そのひとつのソリューションが（株）ブロードとの協業で提供を開始した「HP SCE」です。このソリューションを導入すれば、日常的にユーザーが使用しているパソコン

でのメールやインターネット閲覧を隔離環境で実施することでリスクを減らすことができ、セキュリティインシデントの発生率をグッと減らせるのです。おかげさまで、最近は自治体、企業のほか、教育委員会や医療機関などからの引き合いが増えていきます。

ゼロトラストソリューションのひとつとして、2025年11月からサイバーレジリエンス（サイバー攻撃を受けても業務を継続し迅速に回復する力）の向上に資する「Endpoint Cyber Resilience Suite」というパッケージも提供しはじめたそうです。

山口「特定」「防御」「検知」「復旧」の対策をワンストップで提供するパッケージです。特定は「InterSafe Darkweb Monitoring」、防御に関しては「HP SCE」、検知は「SentinelOne」、復旧は「AIスマートSOC for SentinelOne」といった具合に、目的に応じたソリューションをパッケージで提供しています。これにより、外部・内部の脅威を包括的に対策し、中堅・中小企業における導入・運用コストとリソースの課題解消を目指しています。

「HP SCE」以外のツールはどのような役割をはたすのでしょうか。

山口 たとえば「InterSafe Darkweb Monitoring」はタークウェブ上に自社の情報が漏洩していないかを調査するツールで、結果についてはレポートなどで確認することができます。また万が一、ウイルスに侵入された場合も「SentinelOne」がいち早く検知してくれますし、被害が生じた場合も「AIスマートSOC for SentinelOne」がAIを活用して復旧までのプロセスをスムーズに進めてくれます。もちろん、たんにツールに任せるだけでなく、当社のほうでも専門チームが分析などに取り組み、お客さまのセキュリティ体制の最適化を目指します。

今後の展望についてお聞かせください。

藤森 ゼロトラストの考え方はまだまだ浸透しておらず、とくに中堅・中小企業の間では導入が進んでいません。しかし、今やサイバーレジリエンスも含めたゼロトラストセキュリティは中堅・中小企業にとっても重要な取り組みです。だからこそ、教育や普及活動にも力を入れることで、日本のセキュリティレベルの向上に寄与できればと思っています。

攻撃は最大の防御なり

Ridge Security - RidgeBot®

高度な知識を要するセキュリティ検証を AI で自動化！
進化を続ける攻撃の手口をいち早くシミュレーション！
実在するセキュリティの弱点を継続的に発見！

詳細は [Broad Security Square] で <https://bs-square.jp/columbus>

株式会社ブロード

〒100-0014 東京都千代田区永田町1-11-30 サウスヒル永田町 7F
TEL: 03-6205-7463 (代表)

